



学校だより

調布市立調布小学校
令和5年6月30日(金)
校長 武田 美穂子

HP: <http://www.chofu-schools.jp/chowa-sho>

Mail: chowa-sho@chofu-schools.jp

半夏生～はんげしょう～

校長 武田 美穂子

夏至から数えて10～11日めにあたる半夏生～はんげしょう(今年は7月2日)～は、農家にとってふしめの日でした。半夏半作(はんげはんさく)とは、「半夏生までに田植えを終えないと収穫が半分になる」との言い伝えです。ある地方では、半夏生に焼き鯖を食べる風習があり、田植えて疲れた体を回復させるためだったと聞いています。農業にまつわる風習は私達の生活に今も残っています。関西地方では、「タコの足のように、農作物が根付くように」との願いをこめて、夏至の頃タコを食べるならわしがあるそうです。

このような風習やならわし、伝統等は古くから人から人へ、大人から子供へと伝えられてきているものが多くあります。6月はそのような風習やならわし、伝統といった知識的なことを実体験としてとらえる学習の一環として第5学年はハヶ岳方面、第6学年は日光方面への「移動教室」を2泊3日の行程で実施いたしました。



学校では、時間を意識して行動する場面がたくさんあります。朝の登校から下校まで、常に時間を意識して動いている毎日です。時計で時刻を気にしながらだけでなく、何分間でやり終えるという活動や、時間を競うこともあります。子供たちも我々も、毎日様々なかたちで時間と関わっています。



そんな「時間」は世界のどの国の人にも、どんな年齢の人にも、みんなに平等に与えられている大切なものです。その時間をどのように使うかが大切であり、有意義で充実した使い方をするためにどうすればよいのかを考える場面が何度もありました。最初は楽しさやうれしさ、面白さに流され、つい時間を守れないということもありましたが、だんだんと時間を意識した行動へ変容していく姿を間近でみるのができ、どちらの移動教室も帰校の際

には大変清々しい気持ちでした。

2泊3日、100人以上の子供たちが一緒に生活をしていれば、いろいろなことが起こります。もちろん子供たちは褒められるだけではなく、時には叱られたり、注意されたり、助言を受けたりすることもあります。それを上手に自分の心の中で折り合いを付け、切り替えて次の行動にうつることができるか…。生活していくうえで大切な力であるなど改めて私自身が考える時間でもありました。そして、準備・実施にかかる関係の各機関、業者、宿泊先の皆様の温かなご支援と、お子様の学習活動のために当日までの体調管理や荷物等、ご準備いただきましたご家庭の皆様にも、この場を借りまして改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。



7月は学校生活においてもまとめとなる時期です。終業式までの3週間、1学期の学習内容を復習し、学んだことを力として蓄えていきたいと思えます。子供たちにとってかけがえのない学校生活の一瞬一瞬を大切に、水田の苗が大地に根を張るように、子供たちが健やかに夏休みを迎えられるように努めてまいります。

梅雨明けも間近となり、日中もだいぶ暑くなってまいりました。どうぞ皆様くれぐれもご自愛の上、お過ごしくださいませ。

暑い中の登下校、帽子が役立ちます。



帽子をかぶることによって頭を直射日光から防ぐことができ、直射日光を防ぐことによって、頭の温度の上昇を抑えることができるといわれています。本校では屋外の学習や遊びの際にも帽子の着用を呼びかけています。また、人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目した指標「WBGT(人体の熱収支に与える影響の大きい①湿度、②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標)」を定期的に測定し、教育活動に生かしています。基準の数値を超えている場合は児童の健康と安全を第一に考え、体育や外遊びを中止することもあります。ご了承くださいませ。